

重要文化財

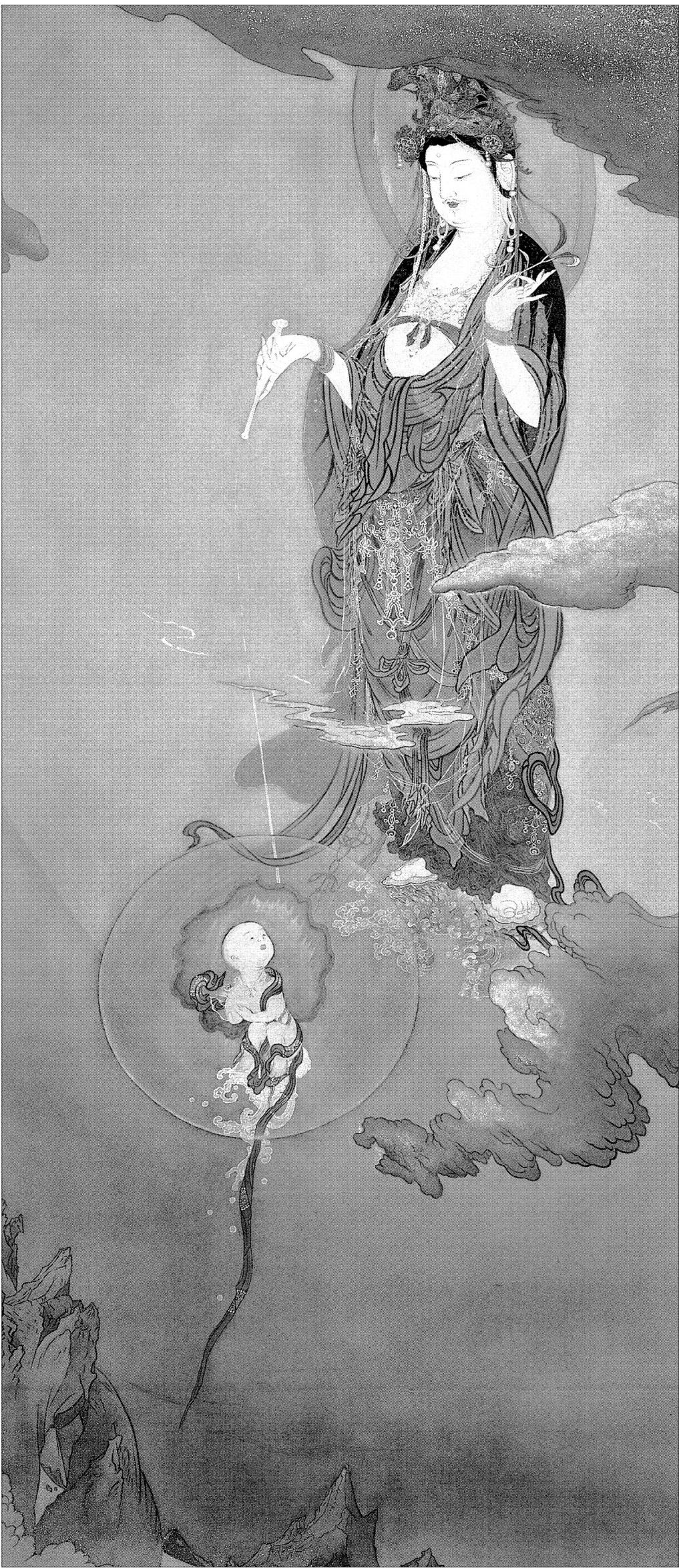
狩野芳崖

悲母観音

復刻版

限定10

わが国の近代芸術を切り開いた「近代日本画の父」が、死の四日前まで描き続け、人生の最期に至って完成させた日本美術史に輝く《重要文化財》を、精緻に完全復刻。見る者すべてを深い感動に包み、心を穏やかに癒す、荘厳かつ稀少な掛軸の一大傑作が、ついに甦ります。



材質：【総線】紺地金牡丹紋金襴【中廻し】錦朱地蓮華紋金襴【一文字】浅葱地筋雲紋金襴と金尽くし【軸先】蓮華唐草堀入金襴  
寸法(約)：【画寸】縦108×48cm【軸寸】縦194×幅63cm

日本が世界に誇る《重要文化財》である仏教画の傑作を、ついに完全復刻

近代日本画の傑作を告げる名作

生まれ出づるみどり児に、生命の霊水を静かに注がれる観音菩薩。頭上にはきらめく宝冠をいただき、流れるような金色の天衣をまとい、天上にふわりと浮かぶような立ち姿の菩薩さま。その眼差しには永遠の慈愛をたたえ、ほのかな微笑をたええるご尊顔を、おぼろかな温もりが満ちあふれたいまです。

日本近代美術初の重要文化財

本作品の作者である狩野芳崖は、幕末に長州藩の御用絵師を父として生まれました。

19歳で江戸への留学を許されて上京。幕府の奥絵師を務める狩野雅信の門下となるやいなや、芳崖の画才はたちまちにして輝きを放ち、橋本雅邦と

ともに「竜虎」と並び称されました

「龍虎」と並び称されました。狩野派の古い流儀に縛られることを良しとせず、新時代の芸術表現に挑戦した芳崖。西洋絵画の色彩や空間表現法を吸収し、西洋と東洋の美を合一させた境地にたどり着き、日本の新たな芸術世界を切り開いたのです。

明治初期に日本美術を高く評価した美学者アーネスト・フェノロサからの、「西欧の聖母マリア像に比肩する作品を」との依頼に応え、芳崖は本作品を手掛けました。

その後、かの岡倉天心が「近世にこの絵画に比得る作品はない。過去の名画をはるかに超えている」とまでに絶賛。そしてついに、わが国の近代美術作品における、史上初の《重要文化財》に指定されるに至ったのです。

原画の気高さそのものを見事に表現

本作品「悲母観音」は「母こそ慈悲、そして慈悲そのものの観世音菩薩は、人々の理想の母である」との思いを抱き続けた芳崖が、人生の最期に辿り着いた世界的な一大傑作です。

あふれ出る母子愛と宇宙の神秘性とともに表現したと絶賛されています。宝瓶を携えた菩薩の御指のなんとたおやかなこと。優しい御手からゆるく弧を描いて

滴る霊水は善財童子を慈愛で満たし、やがてはるか眼下へと散って

ゆきまます。円光のなかで一心に合掌して菩薩を見上げるみどり児のあどけなさ。その瞳は、清浄無垢な魂そのものなのです。

抑えた色合いである「金泥地」は、菩薩のまします天上にふさわしい荘厳さ。日本画独特の淡く多様な色調と、極細の筆致により繊細に描かれた情景が、清らかに澄みわたります。

まさに、天上界はかくやと思ふほどのきらびやかさに満ちあふれた、見る者すべての心を穏やかにしてくれる名画。実際に目にすれば、あまりの気高さにも息を呑むことでしょう。

今回の復刻にあたり、新絹本の上に、最高度の特殊美術印刷、シルクスクリーン

イン・本金本若絵具手彩色をほどこす

ことで、繊細な色彩と優雅な線描、原画の持つ荘厳さを再現を追究。本作品を手がけたのは大塚巧藝新社。狩野芳崖を師にもち、日本を代表する画家・横山天観とも縁深く、様々な作品の復刻を手がけてきた老舗です。日本美術史に名高い絶品をぜひご愛蔵ください。

表装は絢爛たる輝きで名画を演出します。総線は格調高い紺地金牡丹紋金襴、中廻しは錦朱地蓮華紋金襴、一文字は浅葱地筋雲紋金襴と金尽くし。軸先には蓮華唐草堀入金襴を用いています。限定番号を記した証書つき。桐箱入り。300部完全限定制作のうち、今回頒布は限定10部。別売にて、仏表

装によく映える、「純金箔透彫り風鎮」もご用意しておりますので、あわせてご利用ください。

「悲母観音」(実売価格13,910円)

月々 二、一五八円×24回

「純金箔透彫り風鎮」(実売価格11,320円) 月々 九、五〇〇円×3回

お申込み方法  
八が、電話またはFAXで、お申し込みください。

仏画に最適『純金箔透彫り風鎮』

別売  
最高の作品を彩るなら、やはり最高の風鎮を。今回、本作品にふさわしい「純金箔透彫り風鎮」を別売でご用意。彫金芸術の本場である富山県高岡市の名工が、一点一点丹念に鑄造し、豪華に純金箔を手貼りしました。金色の正絹房も輝かしく、ご尊家に福徳の風を招きます。素材は金。外側は純金箔を手貼り、内側は金仕上げ。厚は正確、長さ約25cm

狩野芳崖 略歴  
一八二八年・長門国長府藩の印内(山口県下関市)に生れる。  
一八四六年・江戸に出て木挽町狩野勝川院雅信に入門する。  
一八四九年・師より一字拝領して勝海と号す。  
一八五七年・この頃より狩野派の古法を脱するため、法外に出るという意味で芳崖と号す。  
一八六〇年・江戸城本丸大広間の天井画を描く。  
一八八四年・パリ美術博覧会「観音」など出品。  
一八八五年・第一回博覧会大会に「伏魔羅漢」を出品し二等を受賞。フェノロサに認められる。  
一八八六年・第二回博覧会大会に「仁王捉鬼」を出品し一等を受賞。妻が死去する。  
一八八七年・妙義山に旅し、「悲母観音」の背景にとり入れた「妙義山弘界地取」を残す。  
一八八八年・東京美術学校教授に内定。悲母観音完成。美術学校開校直前に逝去。61歳。

高画名画を引き立てる、格調高い表装  
お申込み方法  
FAX 03-3762-7609  
東京書芸館  
〒140-8536 東京都品川区南大井3-28-3